



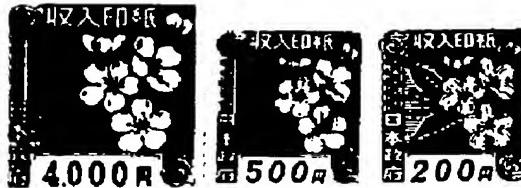
CONCISE EXPLANATION UNDER RULE 98

JP-U-58-1842

This document discloses in FIG. 1 an eye bracket 2 having a plurality of grooves 3 open in its inner circumferential surface thereof. The rubber bushing 5 is secured press fit into the bore of the eye bracket 2, whereby the rubber bushing 5 undergoes elastic recovery and is held in engagement with the grooves 3.

BEST AVAILABLE COPY

公開実用 昭和 58—1842



出願の分類
52-157559/241

適 請

実用新案登録願
登録出願
実用新案法第9条第1項に
いて準用する特許法第44条
第1項の規定による実用新案

(4,705件)

昭和 56 年 11 月 24 日

特許庁長官 島田春樹 殿

1. 考案の名称

ショックアブソーバの取付装置

1' 原実用新案登録出願の表示

昭和 52 年 実用新案登録願 第 157559 号

(昭和 52 年 11 月 24 日)

2. 考案者

住所 神奈川県足柄上郡吉岡町土田 5700
氏名 沢田 隆英

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル
名称 (092) 葦場工業株式会社
代表者 田 部 健

4. 代理人

住所 〒104 東京都中央区銀座8丁目10番8号
銀座8-10ビル3階
TEL 03-574-8464 (代表)
氏名 (7551) 弁理士 後藤政喜

5.添付書類の目録

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 明細書 | 1通 特許庁 |
| (2) 図面 | 1通 56.11.25 |
| (3) 領書原本 | 1通 出願第二封 |
| (4) 委任状 | 1通 (追加補充) |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 |

明細書

考案の名称

ショックアブソーバの取付装置

実用新案登録請求の範囲

ショックアブソーバの取付けアイプラケットに、軸に焼付け固定したラバープッシュを挿入してなるショックアブソーバの取付装置において、ラバープッシュの外周にアイプラケットの軸長さよりも若干長い金属プッシュを嵌着し、該金属プッシュの両端を外方に折曲してアイプラケットに係止してなるショックアブソーバの取付装置。

考案の詳細な説明

この考案は、ショックアブソーバの取付装置に関する。

従来、この種の取付装置として、例えば実公昭49-9429号（考案の名称……取付環）が知られている。この取付環は、第1図に示すように、ショックアブソーバ本体1の下部に取付けられたアイプラケット2の内壁に、環状溝3を形成し、このアイプラケット2内に、軸4に焼付けたラバ



— ラバーブッシュ 5 を圧縮変形させながら圧入し、前記環状溝 3 内でラバーブッシュ 5 を弾性復元させるこことにより保持させて、ラバーブッシュ 5 の抜けを防止していた。

しかしながら、上記のような取付装置は、ラバーブッシュ 5 の抜けを防止する手段としては有効であるが、アイプラケット 2 の内壁に複数の環状溝 3 を形成しなければならないため、切削する工程が多くなり、多大な費用と手間を要するという欠点があつた。

また、ラバーブッシュ 5 は、アイプラケット 2 の内周径よりも大径にして、圧縮しながら圧入しなければならないため、どうしてもラバーの圧縮応力が大きくなり、従つて軸 4 に作用する曲げ応力が大きくなるという不都合が生じ、更に圧縮した分だけペネ定数が高くなるので微振動の吸収も十分行えないという欠点がある。

またラバーブッシュ 5 の材料も、環状溝 3 内に嵌い込ませる量だけ、あらかじめ多く成型しなければならないので、コスト高となる欠点がある。

この考案は、かかる從来の欠点を排除するため
に案出されたもので、アイプラケットの両端部に
ラバープッシュの保止手段を設け、アイプラケット
内にラバープッシュを軽圧入した後、前記ラバ
ープッシュの保止手段により、ラバープッシュの
抜けを防止するようにしたショックアブソーバの
取付装置を提供するものである。

以下、添附図面に基づいてこの考案の実施例を
説明する。

第2図において、11はショックアブソーバ本
体の下部に取付けられたアイプラケットを示す。
そして、軸14に焼付けたラバープッシュ13の
外周に、該ラバープッシュ13の軸長さよりも
若干長く形成した筒状の金属プッシュ19を接着
または焼付けして嵌着し、このように形成したラ
バープッシュ13を、アイプラケット11内に軽
圧入した後、前記金属プッシュ19の両端係止部
20a, 20bを外方向に折り曲げてアイプラケ
ット11の両端に保合する。これによつてラバ
ープッシュ13がアイプラケット11内から軸方向



へ抜け出るのを防止できる。

この場合、ラバーブッシュ13は従来のように強圧縮して圧入するのと異り、ラバーブッシュ13の取付後に内部応力が大きくなることもない。

この考案は、上記のようにラバーブッシュの外側に金属ブッシュを接着してアイプラケットに軽圧入し、アイプラケットの両端部において金属ブッシュを折曲げて係止したため、従来のようにあらかじめ大径に形成したラバーブッシュを圧縮変形させながらアイプラケットに嵌入するのと異なり、ラバーの内部応力を小さくして軸に作用する曲げ応力を低下させ、またラバーのパネ定数（弾性係数）を増大させずに微振動の吸収も十分に行なえることができる。

また、アイプラケットは精密な内面加工等を行なわずに使用できるので、作業工程が著しく短縮し、安価でしかも能率よく製作することができる。

またラバーブッシュは、従来のように大径にする必要がないので、ラバーの使用量も少なくなり、コストダウンを図ることができる。



また、ラバープッシュの固定は、金属プッシュの両端部を折り曲げる（かしめる）だけでよいので、簡単に取付作業を行なうことができる効果がある。

図面の簡単な説明

第1図は従来の取付装置を示す一部縦断正面図、第2図は、この考案の実施例を示す要部の縦断面図である。

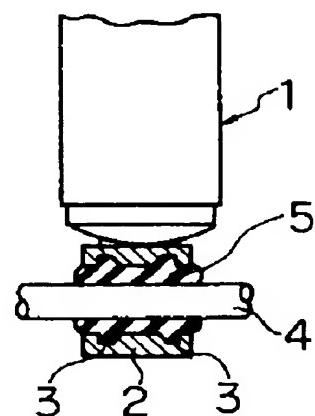
1 1 … アイプラケット、1 3 … ラバープッシュ、
1 4 … 軸、1 9 … 金属プッシュ、2 0 a , 2 0 b
… 両端係止部。

实用新案登録出願人 葦場工業株式会社

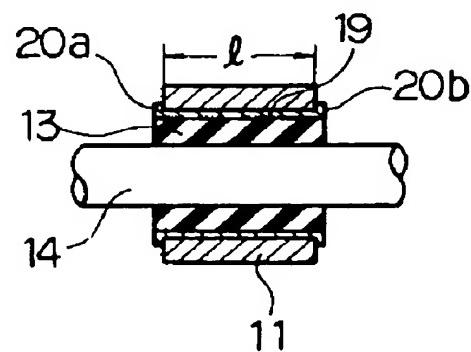
代理人 弁理士 後藤政喜



第 1 図



第 2 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.